



富士見小は開校50周年を迎えました ～これまでも、これからも心の故郷・富士見小～

ALL FUJIMI

飯能市立富士見小学校
R6年度 学校だより
第7号
文責：

人を信じよ、しかし、その百倍も自らを信じよ。

手塚治虫

早いもので、令和6年度も半分が過ぎようとしています。ふと耳を澄ますと、1階から楽しそうな歌声と鍵盤ハーモニカの合奏が聞こえてきます。1年生の音楽の時間です。校庭では6年生が【仲良し運動会】に向けた練習に励んでいます。富士見小学校の代表として参加する運動会。自分の目標に向かって真摯に努力を重ねる凛々しい姿からは、中学校の進学に向けた準備が始まっているように思えます。毎年のことながら子供の成長の早さに驚かされると同時に、今年度も無事に折り返しが迎えらることに大きな喜びと感謝を感じています。

「今どきの若者は全くしょうがない。年長者に対して礼儀を知らぬ。道で会っても挨拶もしない。いったい日本はどうなるのだ。」などと言われたものだ。その若者が、こうして年を取ったまでだ。だから、実年者は「若者が何をしたか」などと言うな。「何ができるか」とその可能性を発見してやってくれ。

上記の言葉は、かの“山本五十六”の言葉だそうです。鍵盤ハーモニカのやわらかな音色も流れるようなバトンパスも、はじめから上手にできたわけではありません。『子供叱るな来た道だもの。年寄り笑うな行く道だもの。』とも言われます。“実りの秋”を迎え、ますます力をつけていくであろう富士見っ子たち。自分の伸びる力を信じて、まっすぐに努力できる子供に育ててほしいと願います。

読書のすすめ

多くの効果がある読書を習慣づけるには「読ませようとする」よりも、「自然と読みたくなる」という環境を作ることが大切だそうです。“本好きの子供を育てる”方法をいくつかご紹介いたします。



1 本を身近に感じやすい習慣づけや環境作り

本を読むためには、気軽に本に触れることのできる環境を作ることが必要です。お子さんと一緒に書店へ行ったり、図書館へ行ったりする習慣をつけることをおすすめします。また、家の中に本棚を置き、いつでもすぐ手に取れるようにしておくのもよい手です。

2 年齢に合った本を用意する

読めない字や難しい単語が多すぎると、子供は本を読むのがおっくうになってしまいます。お子さんの年齢に合った本を用意することは、読書習慣をつける上で重要です。多くの子供向けの本には推奨年齢が書かれています。それを参考に、子供の成長段階に応じた本を選びましょう。

3 大人も本を読む習慣をつける

身近な大人が読書する姿を見せていないと、読書習慣はなかなか身に付かないと言われています。「本を読みなさい」と言う大人がスマートフォンをいじったりゲームをしていたりすると、子供は「なんで自分ばかり」と思ってしまいます。子供と一緒に「読書タイム」を作り、本を読む時間を共有するのもおすすめです。

4 読み聞かせを続ける

幼児の時期は読み聞かせをしていますが、小学校に入ったら自分で読ませるというご家庭も多いかもしれません。しかし、小学生になってもお家の方から読み聞かせをしてもらうことは子供にとって嬉しく、かけがえのない宝物の時間です。無理のない範囲で構いません。読み聞かせを再スタートしてみてもいいかもしれません。

5 マンガや絵本でも大丈夫

「読書」というと、活字で書かれたものでなければいけないと思いがちですが、子供の好きなマンガや絵本でも十分に読書の効果は得られます。様々なストーリーに触れる中で、子供の興味や関心は広がります。読書には、読解力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や集中力など、子供がこれから生きていくために必要な力が身につくという効果もあります。本を読むことで得られる想像力や表現力、コミュニケーション能力などは、子供の人生を豊かにしてくれることでしょう。

中学・高校と進むにつれ、勉強や部活動などで忙しくなり、読書から遠ざかってしまいがちです。成長してからも本を読む楽しさが続くよう、小学生のうちからしっかりと読書の習慣をつけておきたいものです。



“さわやか相談員”による相談業務が始まりました。“大畑 沙知（おおはた さち）さん”です。本校には、毎週木曜日の10時～15時の勤務で、それ以外は第一中学校にいらっしゃいます。お世話になります。よろしくお願いいたします。